- 現在の荷制限品目の例（2014年度 この1.25.現在）

福島県：出荷制限220件/調査33,363件。

農産物 — 26件/10,453件（米、小豆、大豆、葉菜・花蕾類、山菜、茸類、タケノコ等）

畜産物 — 0件/12,508件（ただし、牛の県外移動と屠場への出荷を、県として自粛要請）

水産物 — 71件/8,038件（アイナメ1、アユ1、イシガレイ5、イワナ8、ウグイ1、シロメバル16、他メバル類4、クロダイ1、コイ1、コモンカスベ、スズキ3、カレイ類7、ヒメマス1、ヤマメ13

牛乳・乳児用食品 — 0件/339件

野生鳥獣肉 — 115件/261件（猪、熊、雉等）

その他 — 8/1,748件（大豆1、干し柿など柿7）

- 東日本大震災 主要国・地域の輸出入等関連措置（2015年1月9日現在）　農林水産省

50カ国・地域の一部を例示（順不同）

中国：輸入停止―福島，栃木，群馬，茨城，千葉，宮城，新潟，長野，埼玉，東京の全ての食品・農産品・飼料

韓国：輸入停止―福島，群馬，栃木，茨城，千葉，埼玉，長野，神奈川，宮城，青森，岩手，山梨，静岡の一部の農林水産品

ロシア：輸入停止―千葉，宮城，青森，岩手，茨城，新潟，福島，山形の水産製品

米国：輸入停止（福島・茨城など14県で日本が出荷制限を行っている品目）

1.6. 水田稲作規制と土壌汚染程度

- 土壌中の Cs 濃度が 5000Bq/kg以上。
  （暫定規制値 500Bq/kgの時に決定）
- 水田稲作以外では、決めていない。

98万Bq/m²で5mSv/年を越え、
原発内D区域（＞40万Bq/m²）。

新基準値は100Bq/kgなのに
5分の1にせず、非科学的!!

水田土壌調査には、放射能汚染程度を低く見せたい意図を感じる（次図）。 今は100

- 汚染状況重点調査地域：8県104市町村。
  外部被曝だけで1mSv/年（0.23μSv/時）以上で指定

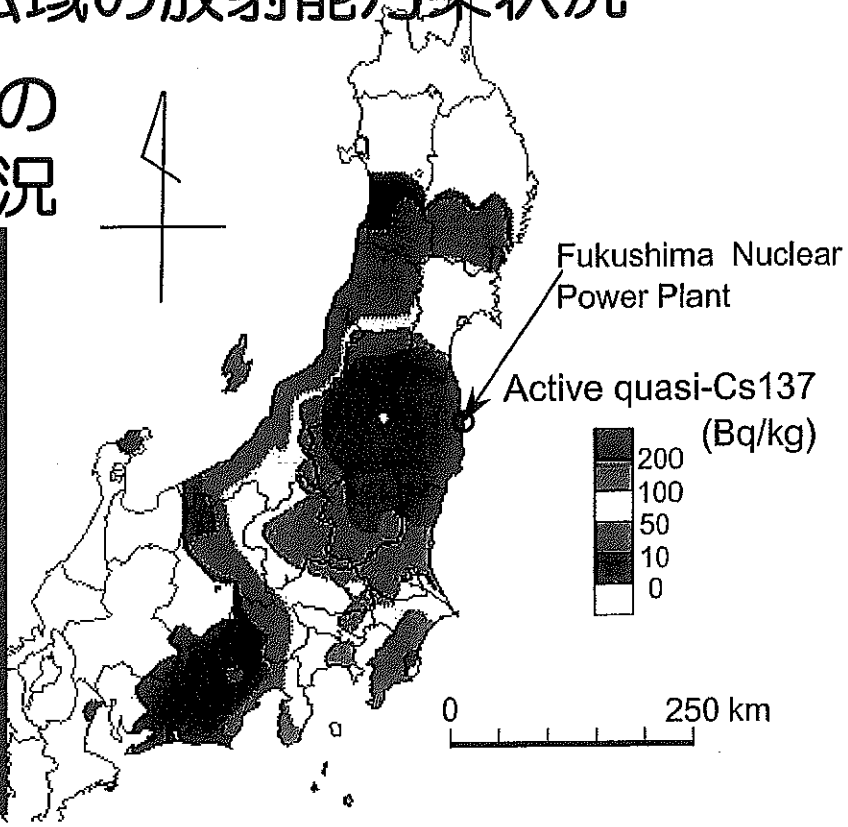
図 霞ヶ浦近辺水田土壌の放射線量分布

Cs134とCs137の換算合計沈着量（Bq/m²）

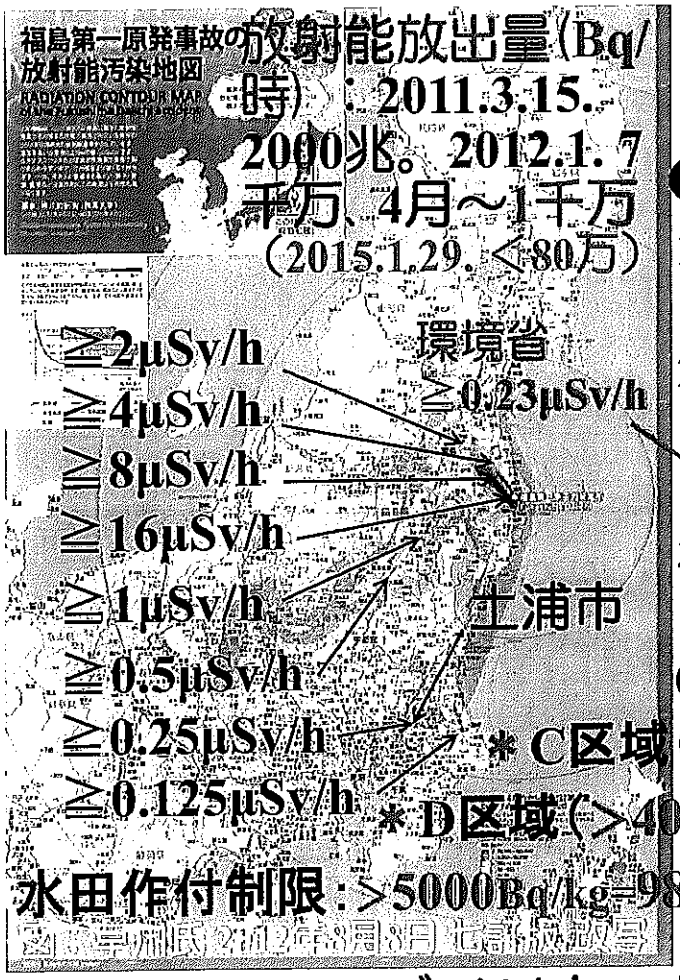
1.7. 関東など広域の放射能汚染状況

図. 淡水魚アユの地域別汚染状況

川のアユのCs-137汚染は、東北地方では岩手・秋田に、南西地方では石川（能登半島）・三重（四日市界隈）にまで及び、東京でも100~200 Bq/kg以上の地域があった。



Toshiaki Mizuno & Hideya Kubo: Overview of active cesium contamination of freshwater fish in Fukushima and Eastern Japan. *Scientific Reports* 3, Article number: 1742 doi:10.1038/srep 01742. Received 13 March 2012, Accepted 05 April 2013, Published 29 April 2013



放射能放出量の出典：東電「原子炉建屋からの追加的放出量の評価結果」
空へ1920万Bq/日、70.08億Bq/年（Cs換算）

●チェルノブイリとの比較

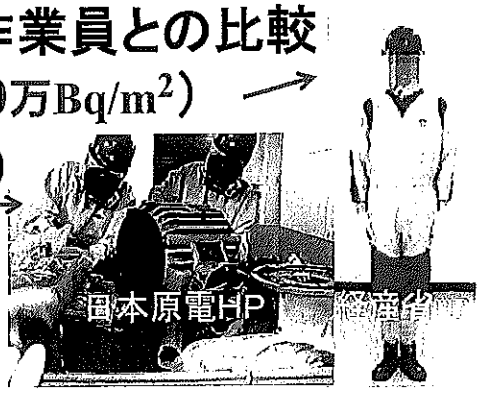
1）強制移住地域：＞0.571μ Sv/h
≧5mSv/y被曝（55.5万Bq/m²）

2）移住権利地域：＞0.114μSv/h
≧1mSv/y被曝（18.5万～55.5万Bq/m²）

3）放射線管理強化地域：
＞0.057μSv/h（3.7万Bq/m²）

●原発作業員との比較

（4万～40万Bq/m²）



1.8. チェルノブイリとの比較

第1部 政府の欺瞞に満ちた放射能汚染食品対策（まとめ）

国の棄民策を糾弾

第 2 部 自然核種K-40と人工核種Cs-137のβ線放射実態の検証

はじめに ①～③

2.1. 生命の必須元素カリウム（K）には放射性カリウム（K-40）が混在

2.2. 自然核種K-40の β線放射実態の検証

2.3. 人工核種Cs-137 — チェルノブイリ被害の全貌

2.4. 人工核種Cs-137 — 福島原発事故による放出物

2.5. 人工核種Cs-137の β線放射実態の検証

第2部　まとめ

はじめに① 放射線の種類ごとの体内透過力（飛程）と電離生起数

α線：2+電荷粒子。飛程約50μm内に約10万の電離を起す。

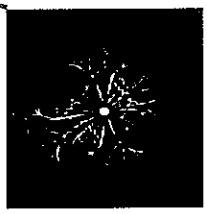
β線：1-,1+電荷粒子。平均飛程約2000μm（2mm）内に約1.25万の電離を起す。

γ線：電磁波。エネルギー消費少なく体を貫通し、低線量での電離は極わずか。

- 内部被曝：I-131, Cs-137, St-90等のβ線とPu-239等のα線が問題（Cs-137：β線が53%、γ線が47%。K-40：β線が約90%、γ線が約10%。
- 太陽からニュートリノ：数百万粒/㎠・秒も貫通。無害。

はじめに② 自然核種と人工核種の形状

点在 → 自然核種：多くは 0.2～0.6nm
臓器など特定部位に集積 → 人工核種：多くは 10nm～20μm



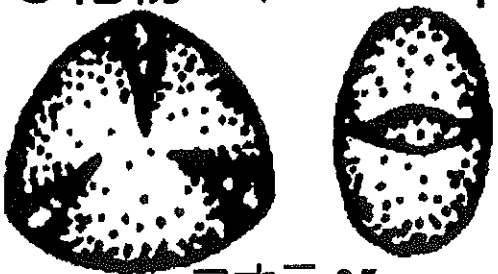
- 粒径100nmの人工核種の体積：0.6nmの自然核種の460万倍。《参考》

これ以下は、肺胞や消化管から血中へ

●花粉：(10～100μm)

0.5～2.5μm：肺胞に付着

PM2.5：直径≦2.5μmの微小粒子状物質。



コナラ 25μm

自然単体核種 0.6nm　縮尺上、表示不能　人工放射性微粒子（混・成集合物）　● 0.1　● 2.5　● 5.0μm

注）1nm（ナノメートル）＝1/1000 μm